

令和6年度 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校関係者評価委員会は、令和7年5月23日に「令和6年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下のとおり報告いたします。

令和7年6月1日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

伊藤 高史（有限会社小ざくらや一清 代表取締役）

長谷川 享平（一般社団法人 愛知県洋菓子協会 会長）

今井 昌人（有限会社O'Sフード所属）

城塚 良彦（リゾートトラスト株式会社所属）

田中 裕貴（株式会社さんぼう 企画営業第2グループリーダー）

山本 匠真（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 卒業生）

中尾 聡（学校法人 大橋学園 副理事長）

星野 正純（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 学校長）

オブザーバー

木下 光（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 副校長）

鈴木 博明（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 調理師専科 学科長）

原田 千奈美（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 学科長）

島田 弓子（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 調理師専科 副学科長）

矢濱 竜淑（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 製菓製パン本科 副学科長）

溝田 智也（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 専門課程事務長）

上田 晴奈（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 専門課程事務長代理）

合計：15名

2. 令和6年度 自己評価（学校運営等についての評価）

項目	評価・課題
（1）教育理念・目標	評価：適切である 課題：業界で求められている「叱る教育」をどこまで指導するか。学生の多様性への対応。 改善方策：外部の先生に聞いたことを学生に伝えていく。注意を素直に聞けるよう指導。 教職員の統一感が必要。お金をもらって働くということを学生のうちに指導。
（2）学校運営	評価：適切である 課題：人材確保、人事・給与に関する制度が開示されていないことが多い 改善方策：経験豊富な教員によるアドバイスによって、良い人材を育てる。 次年度から「製菓理論」を採用基準に。
（3）教育活動	評価：適切である 課題：教育目標を教員同士で十分に納得して共有できているか。学生に寄り添った指導。 仮進級によって退学者が出てしまった点。教員の想いがなかなか伝わらない。 改善方策：具体的な指導について議論・共有できる機会を増やす。 進級・卒業基準に満たない者に対しては、厳しく対応する。

(4) 学修成果・教育成果	評価：ほぼ適切である 課題：就職活動にとりかかるのが遅い学生がいる。 改善方策：卒業生の活躍を学生に伝えたい。同窓会を活用し、卒業生の動向を把握していく。
(5) 学生支援	評価：適切である 課題：就職率だけではなく、定着率も上げる取り組みができているかどうか。 卒業生の動向を把握しきれていない。 家庭によってはなかなか協力してもらえないところもある。 改善方策：早期離職を防ぐサポートを教員個人ではなく、学校として支援する。 現場としては、指導する側の意識改革。イベントなど楽しい環境づくり。
(6) 教育環境	評価：ほぼ適切である 課題：破損個所の増加。見た目にこだわりすぎた設備も多い。 防災訓練の実施。教室不足。社会情勢によって中止していた海外研修の再開時期。 改善方策：今年度大規模な設備更新をしていく。非常階段や屋上など、防災面強化中。 海外研修は今年度より再開予定。
(7) 学生の受入れ募集	評価：適切である 課題：グリーゼーンの学生の受け入れの難しさ。社会人や留学生の受け入れ体制。 改善方策：グリーゼーンの学生はトラブルになりやすいが、周りも対応する力が必要。 個々に合った指導ができるように教員も勉強をしていく。 専門実践を前面に打ち出す。
(8) 教育の内部質保証システム	評価：適切である 課題：教員のスマートフォンでも Teams で学生の個人情報扱うので注意が必要。 個人情報の取り扱いは、教員だけではなく学生にも重要性を周知する。 改善方策：個人情報については全職員がより注意していく。 SNS 等での個人情報の取り扱いについても指導、常に意識づけ。
(9) 財務	評価：適切である 課題：価格が高騰しているため、消耗品の扱いに気を付ける。財務についてはわからない。 改善方策：財務状況の公開はしているが、専門用語だらけで分かりにくいいため、できるだけわかりやすくする。
(10) 社会貢献 ・地域貢献	評価：ほぼ適切である 課題：地域から応援してもらえるような活動ができているか。 ボランティアする時間がない。会場貸しがなかなかできない。 改善方策：店舗販売の回数を増やし、地域貢献の機会を増やす。福祉施設への料理提供。 フードバンクへの寄付。
(11) 国際交流	評価：適切である 課題：留学生は受け入れているが、一定のレベルがないと生活環境及び言語の問題がある。 卒業後、日本での就業が困難。 改善方策：できる限り受け入れたいが、国家資格受験に対する言葉の壁があるため、N2 以上など、受け入れ基準を明確化する。AI の活用。 理解度別に資料を作るなど、対応できる準備を進める。 OC 参加時に理解度を確認。

3. 令和6年度 学校関係者評価（自己評価についての評価）

項目	評価
(1) 教育理念・目標	適切である
(2) 学校運営	適切である
(3) 教育活動	適切である
(4) 学修成果・教育成果	ほぼ適切である
(5) 学生支援	適切である
(6) 教育環境	ほぼ適切である
(7) 学生の受入れ募集	適切である
(8) 教育の内部質保証システム	適切である
(9) 財務	適切である
(10) 社会貢献・地域貢献	ほぼ適切である
(11) 国際交流	適切である

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	様々な項目で卒業生の卒後の就業状況や学校との関係性が重要視された。対応については昨年度より同窓会との関わりを重視し、学校と同窓会の意見交換や令和7年度からの同窓会活動の活性化に取り組み継続をしていく。 また、以前より課題となっていた設備更新も令和7年度より本格的に実施し、学生たちの学習環境の向上を進めていく。